



三重県保健環境研究所

みえ保環研ニュース

私たちは、皆様の健康で安全な暮らしを科学でサポートしています。

第94号(2024年9月)

劇症型溶血性レンサ球菌感染症について

劇症型溶血性レンサ球菌感染症

(STSS) とは

溶血性レンサ球菌(いわゆる溶連菌)には、多くの種類があり、一般的には急性咽喉炎(のどの風邪)などを引き起こす細菌として知られていますが、まれに引き起こされることがある重篤な病状として、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(STSS)が知られています。劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、突発的に発症し、敗血症などの重篤な症状を引き起こし急速に多臓器不全が進行することがある重症感染症であり、その死亡率は約30%とされていますが、重症化するメカニズムはまだ解明されていません。

主な症状としては、最初は、腕や足の痛みや腫れ、発熱、血圧の低下などから始まることが多く、その後、組織が壊死(えし)したり、呼吸状態の悪化・肝不全・腎不全などの多臓器不全を来し、場合によっては数時間で、非常に急速に全身状態が悪化します。

治療方法は、適切な抗菌薬の迅速な投与、必要に応じて緊急手術による広範囲の病巣(びょうそう)の除去、集中治療室での全身状態の管理などを行います。

医師の届出について

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」いわゆる感染症法における五類感染症に分類され、全数報告対象疾患に指定されているので、劇症型溶血性レンサ球菌感染症と診断し、届出基準の症状を満た

している場合、医師は、保健所へ届出する必要があります。

全国の発生状況

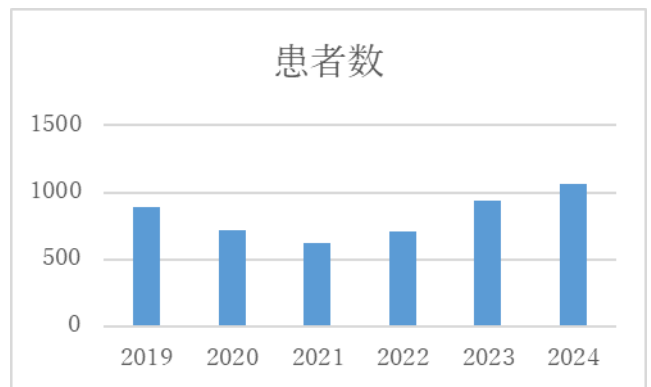


図.2019年～2024年の全国STSS患者数
(2024年は6月16日までの速報値)

日本の2024年の劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告数は、6月2日時点で、1999年に統計を取り始めて以降最多であった2023年の報告数を既に超えています。

三重県の発生状況

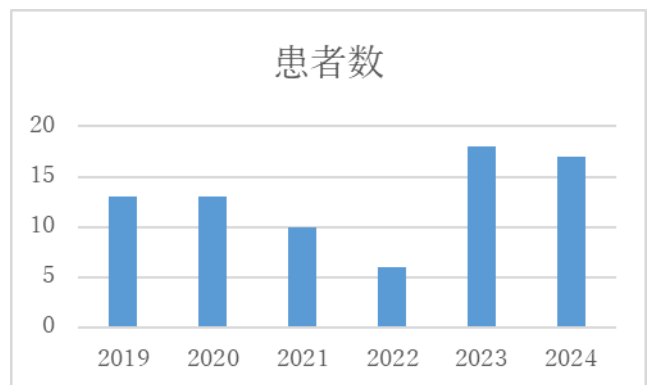


図.2019年～2024年の県内STSS患者数
(2024年は7月7日までの速報値)

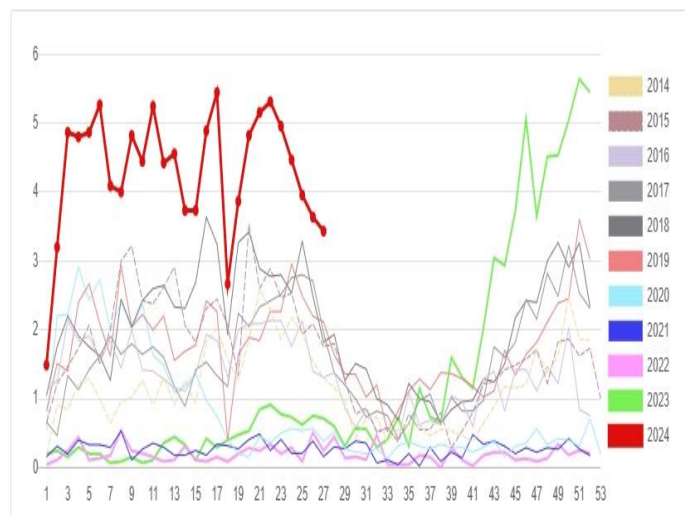
三重県においても、過去最多の2023年の報告数18人に対して、7月7日時点で17人とな

っており、過去最多となるかもしれません。劇症型溶血性レンサ球菌感染症の患者数が増加している理由は必ずしも明らかではありませんが、2023年の夏以降、A群溶血性レンサ球菌による急性咽頭炎の患者数が増加していることが要因の一つである可能性があります（劇症型溶血性レンサ球菌感染症の原因となる菌種としては、A群、B群、C群、G群レンサ球菌が主なものとして知られています）。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点把握対象の五類感染症で、小児科定点として指定された医療機関から毎週届出があります。三重県でも、新型コロナウイルス感染症の影響から、2020年以降の発生は少数でしたが、2023年は秋口から流行が拡大し、定点当たり週間患者数としては過去最大規模となりました。2024年現在も高い水準で推移しています。

日常生活での予防

現在のところ、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、その原因である溶血性レンサ球菌に有効な薬事承認されたワクチンはありません。劇症型溶血性レンサ球菌感染症に限らず、多くの感染症の予防には、手指衛生や咳エチケット、傷口の清潔な処置といった、基本的な感染防止対策が有効です。また、発熱や咳や全身倦怠感などで食事が取れないなどの体調が悪いときは、かかりつけの医療機関などを受診しましょう。



三重県のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎定点当たり患者届出数 (2024年7月7日現在)



参考文献：厚生労働省ホームページ

国立感染症研究所ホームページ

—編集委員会から—

みえ保環研ニュースについて、ご意見・ご質問等がございましたら下記までお寄せください。

三重県保健環境研究所

〒512-1211 三重県四日市市桜町3684-11 TEL 059-329-3800 FAX 059-329-3004

E-メールアドレス hokan@pref.mie.lg.jp ホームページ <https://www.pref.mie.lg.jp/hokan/hp/index.htm>

三重県感染症情報センターホームページ <https://www.kenkou.pref.mie.jp/>